



楽しい発見

1. 1915年度の「ビーハイブ手引き」によって、若い女性は300以上の異なる選択肢からプロジェクトを選ぶことができるようになりました。プロジェクトの幾つかは、1シーズンかけてミツバチの巣を世話する、2週間家からハエを一掃する、1.5エーカー（約0.2ヘクタール）の土地から山ヨモギを取り除くなどが含まれていました。¹²



2. 初期のビーハイブの女性は、地元各協会によってデザインされた制服を着ました。1922年に相互発達協会の公式の色が金と緑になりました。¹³

3. ビーハイブという名称は、開拓者がビーハイブ（ミツバチの巣）を労働と一致のシンボルと見なしていたことに由来しています。マイアメイドは相互発達協会（Mutual Improvement Association）の頭文字MIAに由来しています。ローレルという名称はローレル（月桂樹）のリースに由来しており、名誉と達成を意味しています。¹⁴



4. 1940年代から1960年代にかけて、若い女性は肩からかけたバンデロと呼ばれるフェルトのバンドに縫い付けるエンブレムを獲得することができました。エンブレムを獲得するための一つの条件は、「今月毎晩9時間の十分な睡眠をしっかりと取るように努力する」でした。¹⁵



5. 一般の教会員数は1870年の11万人から¹⁶2020年には1,600万人以上に増えました。¹⁷ 今日、世界中に何人の若い女性がいますか考えてみてください。

2020年



名称: 名称は若い女性の組織のままである。

組織とクラス: クラスは各ワードや支部の必要に応じて組織され、「若い女性」という同一の名称で定められる（例えば、「若い女性12」、「若い女性12-15」、または全員一緒に集まる場合は「若い女性」）。

改善と表彰: 「成長するわたし」のプログラムが子供と青少年のためのプログラムに変更される。新しいプログラムは、個人の成長、福音学習、奉仕と活動の分野で成長するための個人的な機会を奨励する。¹¹

機関誌とジャーナル: 青少年のための機関誌 *New Era*（「ニュー・エラ」）が刊行50周年を近々迎える。■



注

1. See "Timeline of Young Women History," history.churchofjesuschrist.org/landing/a-brief-timeline-of-young-women-history
2. See "Young Women's Timeline," *Mormon Women's Studies Resource*, Harold B. Lee Library, Brigham Young University, Provo, Utah, mormonwomen.lib.byu.edu/young-womens-portal/young-women-timeline.
3. See "History of Young Women Recognition," history.ChurchofJesusChrist.org.
4. See "Young Women's Timeline."
5. See "Young Women's Timeline."
6. See "Young Women's Timeline."
7. See "Young Women's Timeline."
8. See "Young Women's Timeline."
9. See "New Young Women Value: Virtue," Dec. 9, 2008, thechurchnews.com.
10. See "Young Women's Timeline."
11. 「末日聖徒イエス・キリスト教会の子供と青少年」参照
12. See "History of Young Women Recognition."
13. See "History of Young Women Recognition."
14. See "Young Women Classes and Symbols," ChurchofJesusChrist.org/young-women/personal-progress.
15. See "History of Young Women Recognition."
16. See "The Annual Report of the Church," *Ensign*, July 1972, 131-33.
17. See "Worldwide Statistics," newsroom.ChurchofJesusChrist.org/facts-and-statistics.

ヘイズンのヘルピングハンズ

アメリカ合衆国ユタ州に住む14歳のヘイズンは、教会で若い女性になったとき、お祝いとして奉仕しようと決めました。

「最初は小さなアイデアから始まりました」と彼女は言います。「わたしのおじは人道支援としてバングラデシュに行き、現地の人々が直面している困難について知りました。わたしは彼らを助けたいと思い、JustServeアプリで調べてバングラデシュの難民のために手作りのキットを作るアイデアを見つけました。」

ヘイズンは学校で募金を集め、GoFundMeのページを作成し、さらに近所の人のごみ箱を出して、キットのためのお金を集めました。「毎週月曜日と火曜日に22個のごみ箱と、11個のリサイクル箱を出しています。普段自分で稼いだお金は合唱団の活動や伝道のための貯金に回しますが、その月は物品を購入するために資金を使うことにしました」と彼女は言います。

それからヘイズンは靴下や手袋、スカーフ、帽子などキットに必要な物品を買うために出かけました。彼女はキットを一つずつまとめ、Lifting Hands Internationalのディレクターに連絡してバングラデシュにキットを届ける手配をしました。

「このプロジェクトでは、キットをまとめるのにいちばん時間がかかりました。しかしキットにももの一つ一つ入れていくとき、それが必要な人のもとに届けられ、その人が長い間その恩恵を受けることができることが分かっていました。」

プロジェクトが終わるころには、奉仕する能力が自分にある



という自信がついていました。「自分が最大限努力すれば、どれほどの助けができるかが分かりました。また、自分が助けている人に対して思いやりを感じました。そのことによって救い主をより近くに感じ、主がわたしたちに対して抱いておられる気持ちをわずかでも感じることができました。」

若い女性の組織の記念日を祝うとき、わたしたち一人一人はキリストの模範であることを思い出すことができます。ヘイズンのように、主がなさるような方法で奉仕をするよう最大限努力するとき、ほかの人にとって大きな助けとなることができます。■